

平成23年度
事業計画書

I. 事業計画	61
施設環境の整備	62
情報環境の整備	63
教育課程の充実	64
広報活動	66
収益事業	67
II. 設置校が取り組む事業計画	70
女子大学	70
中学校高等学校	71
III. 平成23年度事業計画の事業費及び実施予定	78
IV. 平成23年度跡見学園収支予算について	81
1. 平成23年度収支予算書	81
(1)資金収支予算書	81
(2)消費収支予算書	84

I. 事業計画

「失われた20年」を背負う日本は、少子化・就業人口減・高齢化に伴う所得の減少と内需収縮、新興国への輸出依存、ドル安潮流とセットの円高続伸、工場の海外脱出等が続いています。このため、高い失業率とデフレが長期化する一方、900兆円を越す公的債務は、日本経済に近い将来の深刻な財政恐慌を予感させます。いま、日常の変化と直結し始めた世界秩序は、国家の枠組みを押し超えて大きな転換期に入っています。我々が責任を担う教育もまた、このような変化と無縁ではられません。

学校法人が過去に蓄積した預金等の資産は、厳しい競争的環境を生き抜くための大切な資源ですが、私学事業団の調査によれば、平成14年度以降は、増え続けている要積立額（退職給与引当金、第2号基本金、第3号基本金、減価償却累計額の総計）に対して、預金等の資産確保が追いつかず、不足額が年々増加しています。

私学の経営状態を示す消費収支について見ると、帰属収支差額比率が0%未満の学校法人の割合は40.1%（215/536法人 平成21年度）に昇っています。このマイナス分を過去の自己資本の蓄積を取り崩して補う状況がこのまま続けば、施設・設備等の建替えなどができなくなり、教育活動にも支障が生じる可能性があります。

私立大学のうち、入学定員充足率100%未満の大学は38.1%（217/569校 平成22年度）に達しています。学生数が1万人を超える大学（61校、8% 平成20年度）に全学生数の42%が在籍し、規模別入学定員と入学者の状況（平成22年度）は、入学定員600名～800名未満を境にして、それ以上の規模の大学が定員を充足し、それに満たない大学は定員割れを起こしています。また、卒業予定者の就職についても、「超就職氷河期」の状況にあります。

このように、既に少子化等の影響を深く受けて来ている学校法人としては、今後の経営に当たっては、この長期化しつつある未曾有の景気後退の影響拡大に対し、引き続き先を見据えた堅実な財務運営に徹する必要があります。

学園の高等教育は、昭和40年4月の女子大学設立以来、新座キャンパスに文学部だけの単科の女子大学、文京キャンパスに女子大学と同系の小規模な入学定員の短期大学という二元的な構成でできましたが、平成14年4月のマネジメント学部創設、平成19年3月の短期大学部閉学を経て、平成20年10月から2学部、2キャンパスを有する女子大学という一元的な構成へと転換し、平成23年4月からは、女子大学の位置登録を従来の埼玉県新座市から東京都文京区に変更して、都心に拠点を有する東京の女子大学とすることになりました。

また、学園の中等教育も、平成19年4月に山崎校長が就任以来、選択教室棟の建設、中学1年次8クラス編成、難関大学進学指導の強化、教員の教育力向上等、高度な大学進学に向けた面倒見よい教育を目指して、引き続き学校改革に取り組んできています。

この23年間に200億円の新規投資により、このような教育の質的向上を目指す教育改革を支えてきた学園財務は、高い財務規律に裏打ちされて財務の健全性を維持し、文京キャンパス新棟建設後の現在にあっても無借金で、支払資金についても特に問題のない財務状況にあります。

しかし、今後とも少子化等は確実に進み、また深刻な景気後退がさらに悪化することが見込まれます。私学を取り巻く競争的環境も、二極化が一段と進み、これまで以上に厳しさが増すことが確実であります。

このような厳しい環境下にあっては、学園は、現在の健全な財務基盤をより強固なものにし、多様化する生徒・学生や保護者の教育ニーズに応えられるよう、改革の歩みを止めないということが最も肝要であると考えております。この意味から、平成23年度もまた、将来に向け節度をもって学園の財務基盤を堅守する強い覚悟が必要であります。

このような基本認識を踏まえ、山崎理事長のもと学園の新たなガバナンス体制に基づき、平成23年度の事業計画の柱については、次の項目を掲げることといたしました。

I. 基本的な事項

- ① 跡見が今後とも存在意義の高い私立学校として生き残っていくためには、教育の質的向上が不可欠で

あることから、それを財務面から保証する確固たる経営基盤の確立を目指す。

- ② 大学都心回帰の潮流をにらみ、大学創立50年を迎える新座キャンパス再開発の在り方及び大学の教育機能を文京キャンパスに集結させる場合に必要となる再整備について総合的な検討を行う。
- ③ 大学入学規模の改組拡充の観点から、21世紀の社会の動きを勘案しつつ、どのような教育分野に立つ新学部・学科が跡見に必要な検討を行う。
- ④ 生徒のモチベーション向上を目的とする教育内容の充実を図り、中等教育における私立学校の存在意義を追求する。
- ⑤ 教育の質的向上に向けた跡見の取組みを積極的に発信するため、教育研究や財務の情報を外部に公表し、生徒や学生、保護者の期待に応える。
- ⑥ 事務組織を再点検して学園発展を支える事務機構を目指すとともに、教職協働も視野に職員の能動力と連携力を最大限に発揮させる。

II. 具体的な課題

- ① 健全な財務運営のため、今後10年間の財務シミュレーションを継続的に行う。
- ② 教育監査により、中学高校から大学・大学院までの一貫した跡見の教育の在り方を見直す。
- ③ 学園に大学キャンパス再整備に係る建築会議を設置し、財務・教学の両面から将来を構想する。
- ④ 「平成26年度改革」に向け大学に将来問題検討会議を設置し、平成14年度以降の大学カリキュラムの総括を行い、新たな教育課程の構築を検討する。
- ⑤ 学力ボトムアップのための中学7時限目補習授業の実施、高校3年に希望制の難関大学受験クラスの設置、中学1年から高校2年に英語特別クラスの設置、高校カリキュラムの全面的見直し（大学系統別コース制の導入）により、入口の中学偏差値向上及び出口の難関大学入試合格力の向上を図る。
- ⑥ 情報発信をより充実させるため、学園全体のホームページの構成やデザインを見直し品質を向上させる。
- ⑦ 大学自己点検評価評価マネジメントシステム（経営評価指標）及び中学高校学校評価システムを稼働させるとともに、経営評価指標と連動する目標管理を軸とする職員評価システムを導入する。
- ⑧ 学園発展のため、拡大課長会議をベースとして、事務機構の管理職の役割を見直し、情報共有・事業評価・目標管理による業務の改善を進める。

以上の事業を遂行するためには、高い財務規律に裏打ちされた強固な財務基盤に立ち、学園の将来の発展に向けて着実に準備を進めて行かなければなりません。学園が「選ばれる私学」たり続けるため、引き続き、関係各位のなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【施設環境の整備】

女子大学関係

1. 新座キャンパス

① 仮設校舎の設置

平成18年度の新学科増（コミュニケーション文化学科及び生活環境マネジメント学科）に伴う学生数増加に対応するため、体育館脇駐車場に100名程度収容できる仮設教室3教室を3年リースで設置したが、今後も本仮設教室の利用が見込まれるため、設置を継続する。仮設教室：1号棟360.72㎡、2号棟180.36㎡

② 体育館ガス暖房（ペーパーライザー）更新工事

経年劣化に伴い、ガス暖房装置を更新する。

③ 車両更新（作業用軽トラック）

老朽化により故障時の対応が出来ないため更新する。

④ 門衛所受付庇設置工事

夏季及び雨天時における不具合解消のため庇を設置する。

⑤ 食堂棟屋上防水工事

防水層の経年劣化の進行が見られるため防水工事を行う。

- ⑥ 食堂棟空調設備更新工事
老朽化により空調機の更新を行う。
- ⑦ 防犯システム構築（機械警備）
防犯体制を見直し強化する。

中学校高等学校関係

- ① 体育倉庫設置
女子大学の棟建築に伴い、工事エリア内にあった体育倉庫を取壊し、臨時の仮設倉庫を跡見講堂右脇通路にリースにて設置したが、常設化が必要なため、新たに据え置きタイプの倉庫を設置する。
- ② 校舎階段安全対策
階段吹き抜け部分に落下防止ネットを設置する。
- ③ 校舎内塗装工事（1階～6階廊下壁・天井）
築21年経過の内壁汚れ対策のため塗装を行う。
- ④ AED設置（2台）
救命処置に備えてAEDを設置する。
- ⑤ 大アリーナ天井（天井ボード及び照明器具）改修工事
経年劣化に伴い、天井の改修工事を行う。
- ⑥ 李子記念講堂舞台機構及び調光設備改修工事
機器の製造から20年が経過し、劣化が見られるため、改修工事を行う。
- ⑦ 熱源（冷温水発生機）更新工事
設置後21年が経過し、経年劣化によるトラブルが発生する可能性があるため、冷温水発生機3基を更新する。（昨年ボイラー2基を更新）
- ⑧ 防災監視盤更新工事
経年劣化に伴い、防災監視盤を更新する。
- ⑨ 建物外壁劣化診断
建築基準法関連の改定により外壁劣化診断を行う。

法人棟関係

- ① 正門廻り改修工事
春日通りの拡幅工事に伴い、正門廻りを改修する。
- ② 建物外壁劣化診断
建築基準法関連の改定により外壁劣化診断を行う。

北軽井沢研修所関係

- ① 給湯配管更新工事
経年劣化に伴い、配管の更新工事を行う。

学生寮関係

- ① AED設置（1台）
救命処置に備えてAEDを設置する。

【情報環境の整備】

女子大学関係

1. 新座キャンパス

- ① 2号館教室（2教室）改修工事

プロジェクター・スクリーン・BD/DVDプレーヤを（既存システムを生かして）改修する。又、PCを装備する。

- ② ネットワークシステム更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ③ 証明書自動発行機更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ④ 一般教室貸出用ノートPC更新（24台）
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ⑤ 大学院生貸与用ノートPC更新（7台）
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ⑥ 心理教育相談所PC,ノートPC,プリンター更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ⑦ 心理教育相談所SPSSライセンス更新（3点）
リース期間満了に伴い、更新する。
- ⑧ 教材作成ラボ什器・機器更新
リース期間満了に伴い、什器・機器を更新する。

2. 文京キャンパス

- ① 一般教室貸出用ノートPC更新（5台）
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ② マネジメント研究科研究室PC、プリンター、スキャナー更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。

中学校高等学校関係

- ① ネットワークシステム更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。

法人関係

- ① ネットワークシステム更新
リース期間満了に伴い、機器を更新する。
- ② グループウェアの導入
学園の情報共有及び業務の効率化のため導入する。
- ③ 学術情報ネットワーク〔SINET4〕への移行
国立情報学研究所の接続形態がSINET3からSINET4への切替えに伴い、ネットワークシステム更新に合わせ、移行作業を実施する。

【教育課程の充実】

女子大学関係

- ① 平成18年度カリキュラムの完成と継続
平成18年度に新学科設置とともにスタートした新カリキュラムは、外部団体とも協力し、ネイティブ教員による実践的な応用英語のほか、学生及び社会人として必要とされるマナーについて実践を伴いつつ社会で通用する心と常識を修練する科目「ソーシャルマナー」等、大学1年生全員を対象とする「社会人形成科目」を中心に科目の新設を行った。
平成19年度においてはカリキュラム進行2年目として、文学部にあっては、2年生全員を対象とした専門分野の研究の基礎となる力を培う科目として「研究入門」を、マネジメント学部において、

2年生全員を対象とし、科目の中にインターンシップを必須として組み込んだ「実践ゼミナール」を、全学共通科目にあつては、e-learningを取り入れた「英語マルチメディアレッスン」を開設した。いずれも前期課程（1・2年生）から後期課程（3・4年生）への橋渡しの役割を担った科目である。

平成20年度にあつては、9月の新棟完成とともに、10月より当該カリキュラム適用の3年生（平成20年度は3年生のみの限定措置）が文京キャンパスで学ぶこととなった。それに伴い、その前年度末の平成20年3月には、開学以来初の制度として、前期課程（新座キャンパス）から後期課程（茗荷谷キャンパス）に進級する際の「進級判定」が行われた。新座キャンパスにおける前期課程の科目は、基礎・入門・総論・基幹といった名称の科目区分・科目名で構成されているが、文京キャンパスにおける後期課程の科目は、各論・特殊講義・演習・展開といった専門的な、絞り込んだ内容の科目区分・科目名で構成されている。

平成21年度には、念願であつた「都心の女子大」としてのデュアル・キャンパス化のスタートとともに、3・4年生が文京キャンパスで学ぶこととなり、新カリキュラムも完成年度を迎えた。茗荷谷の地は交通至便であり、就職活動をはじめ学生の諸活動の幅も広がっている。

平成22年度においては、文学部、マネジメント学部に新学科をそれぞれ1学科設置した。カリキュラムは、当該新学科の専門科目の開設ならびに卒業論文の全学的必修化を実現して、全体としては平成18年度カリキュラムを踏襲しつつ、これを発展させた。

平成23年度においては、平成22年度カリキュラムの進行2年目となり、従来の進級条件に若干の改正を施した平成22年度カリキュラム進級条件に基づく初の進級判定が行われる。

なお、平成22年2月に大学設置基準が一部改正され、平成23年4月から、「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整える」（第42条の2、新設）ことが必須となった。

即ち、正課教育の中でキャリア形成を支援するように授業を工夫することあるいは授業科目そのものを開設することが求められ、併せて課外においても低学年に対する実施も含めたキャリア・ガイダンス、セミナー等の充実等の取組が求められている。

然るに、本学においては、平成18年度カリキュラムにおいてそのことを「社会人形成科目」としてすでに開講・実施済みであり、他に先駆けたカリキュラム設置はまさに先見の明があつたといえよう。

中学校高等学校関係

高度な大学進学実績を目指す方向に舵を切るため平成20年度見直した教育課程を継続。

高等学校については、受験類型別高3選択パターンを明確にし、生徒が自らのパターンを決め、そのパターンの中で生徒が自分の進路に必要な科目を選択するとの観点に基づいて、「英語演習」の必修化及び「国語表現」を軸とする教育課程を実施する。また、平成24年度指導要領改定にむけ、進学コース別のカリキュラムを決定した。

中学校（1年は8クラス編成）の教育課程については、中学1年の数学を4時間（週単位、以下同じ）から5時間に増やすため、音楽2時間及び美術2時間をそれぞれ0.5時間ずつ、合計1時間削って、数学の時間増に充てることを継続。

全校で、漢字検定（2級未取得者）及び英語検定（中学3年・3級未取得者、高校2年・2級未取得者）の受検を必修とする。

また、教育課程の進度に遅れた生徒の救済のための補習については、中学1～3年について、週3日第7時限目を活用し、定期考査ごとに10～12名程度を指名することにより、国数英の3教科の補習をチームティーチングによって行う。

中学1年生～高校2年生を対象に、英語特別クラスを設置し、昨年同様、週1日第7時限目を活用し、1学年10～12名に対し、ネイティブスピーカーによる多読力、ライティング力、リスニング力強化の授業を行う。また、昨年同様、中学2・3年生を対象に夏期休業中に5日（計20時間）、1学年2クラス（1クラス

10~12名) に対し、ネイティブスピーカーによるリーディング力、ライティング力、スピーキング力強化の集中授業を行う。新たに、中学校高等学校に1クラスずつ帰国生クラスを設置し、英語圏からの帰国生の英語力維持及び、さらなる学力の向上を目指す。

全校で、G-TEC (スコア型英語検定試験) の受検を必修とし、進学実績と密接に結びつく英語力の向上を目指す指導手段とする。

なお、従来から実施されている学校行事については、これを削減しないこととしている。

【広報活動】

① 『ブロッサム』の年2回刊行 (31号、32号)

大学・中高の特色ある教育活動・教育改革の具体的紹介、デュアルキャンパスの様子、再開発に伴う茗荷谷地区の変貌、財務情報の公開等、さまざまな切り口から跡見の世界を広く伝える。(各回約65,000部制作、校友への発送約50,000部)

② Web環境の整備

学園ホームページの更新、校友メールマガジンの配信等の充実を図りつつ広報用のWeb環境を引き続き整備する。また、高校生の96%が所持している携帯を活用して、大学の情報をメールマガジンとして配信するなど、受験生に直結するWebによる広報の方法も考える。

③ 入試アドバイザーによる高校訪問の強化 (12年目)

平成23年度も、進学説明会をはじめ、多様な広報媒体と連携して、引き続き入試アドバイザーによる高校訪問を強力に行い、志願者増の成果に結びつける。

④ 就職広報の充実

卒業生の採用価値を高めるため、実業界向け媒体への就職広報や企業人事担当者との就職懇談会を引き続き充実させる。

⑤ 文京キャンパスの完成を中心とした新たな広報の推進

ホームページ等の学園Webサイトを活用し、文京キャンパスの都会的なイメージを積極的に広報する。

⑥ 広報委員会による広報活動

平成18年度において、それまで各機関で独自に行っていた広報媒体を取捨選択し、駅ポスターやグッズなど一括運用することとし、平成19年度には、翌20年度の文京キャンパスの開校に伴うデュアル・キャンパス化とメトロ副都心線開業により渋谷~志木が一本に繋がることをイメージした新たなデザインのAのロゴを制作し、以降、通年掲出の東急線エチケットボード、メトロ3駅 (茗荷谷・護国寺・副都心線渋谷) のホーム電飾看板、時期的な集中掲出による東横線渋谷駅における斬新な巨大ポスター、メトロ新型車両のドア上ビジョンでのCM放映、5私鉄43駅の専用掲示板へのポスター、JR埼玉東部・北部地域のJRポスター等で活用して来ているところである。平成23年度もこれまでの広報の継続性を重視した広報を展開する予定である。

また、平成19年度に300名を超える中高生のアンケート協力を得て、受験生の目線を重視したものをという共通認識のもと、本学園ならではの受験生用グッズを考案・制作し、オープンキャンパス、学校説明会等のさまざまな場面で配布している。従来からのシャープペンのもとより、平成20年度には手提袋、ガム、ドロップ、鏡、中高用定期入を、平成21年度には塩ビ製小型手提袋、ポストイット、塾カバン用ベア反射板を、平成22年度には清涼ドロップ (ミンティア)、消えるマーカーペン、封筒型クリアファイルを制作・配布し、どれも好評を博している。平成23年度には和テイストのあぶらとりがみ、真夏のオープンキャンパスの施設見学のための日除け傘、消えるサインペンの制作・配布を予定している。

一方、一般向け広報としては、平成19年度に働きながら子育て中の著名な3人の女性をパネリストに迎えたシンポジウムを実施し、平成20年度には文京キャンパスのリニューアル・オープンを記念して、社会の第一線で活躍しつつ子育てを経験した著名な3人の女性をパネリストに迎えたシンポジウ

ムを実施した。平成22年度には、大学の新学科開設記念として放送、出版、舞台でそれぞれ表現活動を行う著名な女性3人をパネリストに迎えたシンポジウムを実施した。

また、中高でも平成21年度より社会の第一線で活躍する卒業生を迎えての教育シンポジウムを毎年開催しており、平成23年度も継続実施する予定である。

その他一般向け広報としては、読売ウィークリー、週刊朝日等の雑誌の表4にイメージ広告を掲載してきたが、平成22年度には週刊マンガ日本史の表4へ3回、新週刊マンガ日本史の表4に1回、広告を掲載した。平成23年度にも新週刊マンガ日本史の表4に3回の掲出を予定している。

⑦ 大学院広報の強化

雑誌広告などの掲出を通じて、社会一般における跡見大学院の認知をより徹底させる。

⑧ メトロ副都心線の開業と今後の東横線直結に係る広報活動

平成20年6月の東京メトロ副都心線の開業により、東上線志木から若者に人気のある街である池袋・新宿3丁目・原宿を經由して渋谷まで急行32分で乗り換えなしで繋がることを最大限に利用し、文京キャンパスはもとより新座キャンパスの利便性についても積極的に広報した。開業と同時に副都心線渋谷駅のホームに電飾看板を設置し、副都心線・有楽町線の新型車両のドア上メトロビジョンに動画広告を展開した。当該車両は東上線川越市、西武池袋線小手指方面にも乗り入れており、その広報範囲はメトロ線内に留まらず郊外にまで及んでいる。平成23年度もそれらを継続実施するとともに、平成19年度から引き続いている城南地区・神奈川方面の受験生開拓に重点を置いた広報活動を展開する。

なお、1年後の平成24年度内には東急東横線と副都心線が直結し相互乗り入れとなるため、東武東上線・副都心線・東横線・みなのみらい線が1本となる。これを契機に城南地区・神奈川方面については池袋・志木まで1本という利便性を広報する。さらには、その3年後の平成27年度頃には、計画では東横線と相鉄線が乗り入れとなるため、中高にとっては相鉄沿線からの利便性についても広報できる可能性を大いに含んでいる。

⑨ 雑誌等への広告掲載など

一般向け広報としては、平成19年度に、不定期ながら「読売ウィークリー」の表4（裏表紙）で2回、目次対向で1回の広告掲載を駅ポスターと同じ斬新なデザインで行った。

平成20年度には残念ながら「読売ウィークリー」は休刊となってしまったが、代わりに全日空の機内誌12月号にビジネスマンである受験生の父親層向けの斬新な広告を掲出した。

平成21年度には「週刊朝日」の表4（裏表紙）に各機関の改革事例を挙げた広告を掲出した。

平成22年度については、前述の週刊マンガ日本史（40万部発行）のうち、福澤諭吉、板垣退助/大隈重信、平塚らいてう/与謝野晶子の各号の表4に、当該マンガの主人公・登場人物と本学園が繋がりのあるところを示した広告を掲出した。また、週刊マンガ日本史の続編が新週刊マンガ日本史として刊行され、3月には千利休の号の表4に本学園が学校茶道の始まりという広告を掲出した。平成23年度についても、平賀源内、篤姫、渋沢栄一の3号について広告掲出を予定している。

【収益事業】

（1）事業概要

収益事業部（以下「事業部」という。）は、今年度から音羽駐車場の賃貸については、（株）トヨタエンタプライズ（トヨタ自動車系子会社）と業務委託契約を締結し（時間貸し）、年間賃料を18,924千円（月間1,577千円、税込）としたことで、事業部年間経常収入の約59%を占めることとなり、経営の安定に大きく貢献する。

職員は、専任が2名とアルバイト（週2日乃至3日）の構成で運営し、専ら中学・高校の学用品（教科書等その他指定用品）中心の販売であり、年毎の売上差はないので、今年度からの新たな駐車場運営に期待している。

<事業部の年間業務>

- 4月 新学期販売準備（上履、校庭履、指定用品等）
中・高生教科書販売
ランチ販売
団体保険、損害保険代理店業務
駐車場賃貸
教師用教科書・指導書販売
- 5月 中・高生スポーツ大会飲料水販売
中学学校説明会、幹事会・父母会等飲料水販売
収益事業決算
- 7月 中・高生夏期休暇用教科書販売
中学学校説明会入試問題集販売
- 8月 夏期休業
- 9月 中・高生新年度用教科書・教材問合せ準備
中学・高校体育祭飲料水販売
中学・高校文化祭食堂出店・入試問題集販売
- 10月 中学学校説明会入試問題集販売
- 11月 中・高生新学期用教科書入荷
中・高生用副教材発注準備・教師用指導書発注
中学学校説明会入試問題集販売
- 12月 中・高生新学期用教科書入荷
中学学校説明会入試問題集販売
中学帰国生入試関係準備
高校帰国生入試関係準備
- 1月 中・高生新学期用副教材の発注
- 2月 中学入試期間物品・飲料水等販売
中学新入生教科書・教材販売
中・高在校生教科書申込・集計等
- 3月 中・高在校生教科書販売（2月下旬から3月上旬）
中学・高校卒業式物品・飲料水等販売
中・高生新学期用物品等準備
予算編成

(2) 予算概要

(単位：千円)

科目	本年度予算額	前年度予算額	増・△減
経常収入			
商品売上利益	6,300	6,300	0
書籍売上利益	5,000	5,000	0
生保取扱手数料	150	150	0
損保取扱手数料	800	800	0
駐車場賃貸料収入	18,924	15,960	2,964
不動産賃貸料収入	3,220	3,220	0
住宅厚生貸付手数料収入	0	0	0
雑収入	1,400	1,400	0
経常収入計	35,794	32,830	2,964
販売費及び一般管理費			
人件費	16,500	28,150	△11,650
委託管理費	946	798	148
減価償却費	0	90	△90
租税公課	5,700	5,500	200
諸経費	3,000	3,000	0
販売費及び一般管理費計	26,146	37,538	△11,392
営業利益	9,648	△4,708	14,356
当期純利益	9,648	△4,708	14,356

Ⅱ. 設置校が取り組む事業計画

【女子大学】

平成22年度において、跡見学園女子大学は教育課程を再編成するとともに、文学部に現代文化表現学科、マネジメント学部観光マネジメント学科を設置した。新学科の設置をバックアップするためのシンポジウムは活況を呈し、両学科の受験生確保は順調に推移した。

事務機構においては、新座キャンパス、文京キャンパスにおける職員配置の見直しを図り、ローテーション勤務を廃止するとともに、職員の兼務をなくす方向へと舵を切った。

新座キャンパス1号館の老朽化に対する対処を踏まえ、平成26年度から2つのキャンパスを総合的視点から利用体制を整備すること、および平成14年度以降における本学の教育課程の変遷を総括し、新たな教育課程の構築を展望するための準備に入った。

1. 教育研究

(1) 学部等の改革

- ① 平成22年度設置学科とその経過
文学部現代文化表現学科
マネジメント学部観光マネジメント学科
- ② 「平成26年度改革」の準備
将来問題検討会議への諮問

(2) 諸規程の点検・整備

(3) カリキュラムの点検

- ① 平成22年度カリキュラムの点検

(4) 教育研究支援

- ① 教員評価制度の導入（4年目）から教員評価結果の反映へ
- ② 教育研究体制の充実
- ③ FD活動の継続実施

(5) 学生支援

- ① 一紫会による奨学金
- ② 後援会による奨学金
- ③ 就職支援体制の全学的取り組み

(6) ステークホルダーとしての保護者サービス

- ① 保護者対象大学説明会の実施（4年目）

(7) 学園140周年、大学50周年記念行事の準備

- ① 大学50年史の刊行準備
- ② ホームカミングデーの準備

2. 管理・運営

(1) 大学管理・運営の点検・整備

(2) 事務組織の点検に基づく将来構想

3. 施設設備

(1) デュアルキャンパスのあり方の検討

4. 広報・学生募集

- (1) 学部学科設置理念の確認と浸透
- (2) 入学試験制度の再検討

5. 学外団体との交流

- (1) 国内 学外団体との交流
 - ① マネジメント研究科と立教大学21世紀社会デザイン研究科との交流
 - ② 文京区内大学との交流
 - ③ 埼玉県内大学との交流
 - ④ 彩の国大学コンソーシアム
 - ⑤ 高等学校との交流
- (2) 国外 学外団体との交流
 - ① 夏期語学研究によるスターリング大学、アクイナス大学との提携の深化
 - ② 夏期語学研究における中国新規提携大学の開拓

6. 地域との交流・地域貢献

- (1) 文京区との提携
 - ① 個別協定から包括協定へ
- (2) 新座市との提携

7. 点検評価

- (1) 大学基準協会による評価に基づく改善
- (2) 平成27年度大学評価に対する対応指針の策定

【中学校高等学校】

<基本方針> 平成23年度は、22年度事業計画を継続しつつ、特に教育目標達成のために教員の教育力の向上と教員の意識の向上を図る。

1. 教育目的

学祖の目指した女性としての自律し自立するための知、情、意のバランスの取れた発達による全人教育を中高一貫教育の教育システムの中で実践する。

2. 教育目標

上記の目的達成のため以下の教育目標を掲げる。

① 生活指導面

中学生：基本的な生活習慣の確立と自己分析（集団中における自己の役割・個性）

高校生：個性を伸張させる仲間との連携と人生計画

② 学習指導面

中学生：学習に向き合う姿勢の継続と基礎学力の育成

高校生：自己の進路目的に向けた学習応用力の養成

○ 教育目標の具体化～生活面

生活面においては集団における個、個と集団の関係は机上の学習のみでは習得が不可能である。そのため、昨年より新たに実践した事業を含め、従来から実践している事業を継続する。

- ① 全校的：全生徒 担任による個人面談の実施（4月・10月）
体育祭（9月）

文化祭 (9月)

音楽会 (6月)

ウイーン少年合唱団

遠足 (5月)

候補地を絞り、学年ごとに行動

中学1年 高尾山

中学2年 金時山

中学3年 筑波山

高校1年 パノラマ台

高校2年 榛名湖周辺

高校3年 森林公園

校外見学 (11月)

学年ごとに行動

海外語学研修 (7月～8月)

・オーストラリア、クイーンズランド州ブリスベン、14日間

現地校の授業参加、少人数英語授業受講

スキー教室

② 中学生：コミュニケーションスキルの育成

③ 悩みを持つ生徒に対して：チームで取り組む（段階別に、担任、学年主任、保健主事、校務部長、主事、カウンセラー）

④ 危機管理に関する見直し：通常授業時、宿泊行事時、いじめ等生徒に対する効果的な「声かけ」を共有し、実施する

⑤ 中学1年：新入生出校日における講話の充実

⑥ 中学1年：自然教室 北軽井沢にて3泊4日 (7月～8月)

鬼押出し園と溶岩樹型群・観察の森・孀恋郷土資料館・鎌原観音堂見学

⑦ 中学2年：自然教室 丸沼3泊4日 (6月)

湯滝・竜頭の滝見学、日光白根山登山、尾瀬ヶ原散策

⑧ 中学3年：修学旅行 広島2泊3日 (9月)

被曝体験者の方と一緒に平和記念公園にて碑めぐり、広島平和記念資料館見学、放射線影響研究所・広島大学原爆放射線医科学研究所・本川小学校訪問、大久野島フィールドワーク、似島フィールドワーク

⑨ 高校1年：オリエンテーション 箱根2泊3日 (4月)

職業調べ、外部講師・卒業生による講演、相談、グループワーク

⑩ 高校2年：研修旅行 奈良・京都4泊5日 (9月～10月)

東大寺・法隆寺・奈良公園・東寺など見学、クラス別・グループ別行動

○ 教育目標の具体化～学習面

学習面では以下の事業を行う。

① 全 校：全校漢字テスト、読書感想文、夏期・冬期補講、業者による学力テスト（中学：ベネッセ 高校：ベネッセ 駿台予備校）、漢字検定・英語検定必修、ベネッセファインシステムを導入し、生徒の進路指導・学力の客観的な分析・入試の予測や結果分析に利用

② 全 校：年間を通して授業曜日数を平均化する

③ 全 校：積極的に外部のコンテスト等に出場するよう指導

④ 中学生：茶道裏千家の作法習得

⑤ 中学生：国語・数学・英語 遅れてしまった生徒対象にチームティーチャーによる補習

- ⑥ 中学1年～2年：英会話クラス設置（7限目）
- ⑦ 中学2年～3年：英語の成績優秀者で希望する生徒に対し、英語夏期集中クラス設置
- ⑧ 中学1年：8クラス
- ⑨ 中学2年～3年：英語は1クラス2分割
- ⑩ 中学3年：希望者に対し、国際文化交流セミナーを実施 プリティッシュヒルズ2泊3日
- ⑪ 高校生：受験体制を考え、精査された科目選択パターンを提示
 - [国公立文系] 続世・日史→古典講読→数学演習→世・日史演習→国語演習Ⅱ→理科演習
 - [私立文系] 続世・日史→古典講読→芸術Ⅲ→世・日史演習→国語演習Ⅱ→(国語表現)
 - [国公立理系] 数学ⅢC→物理Ⅱ→数学演習B→理科演習→国語演習Ⅱ→理科演習
 - [私立理系] 数学ⅢC→物理Ⅱ→数学演習B→理科演習→理科演習
- ⑫ 高校生：全学年「英語演習」必修
- ⑬ 高校生：英語特別クラスの設置
- ⑭ 高校1年：「英語演習Ⅰ」を学校設定科目とする
- ⑮ 高校2年：選択組み合わせの合理化
 - 例 国立理系センター対策とし「国語演習Ⅰ」を理系古典として特化、「芸術Ⅱ」との同時開講
- ⑯ 高校3年：受験指導の徹底を図る
 - 例 「国語表現」で充実した小論文指導を行う
- ⑰ 高校3年：難関大学受験クラスの設置
 - 対 象：高校3年生で希望する生徒
 - 日 時：4月～12月まで 週1回 7時限目相当
 - ク ラ ス：難関大学受験 国語
 - 難関大学受験 理系数学
 - 難関大学受験 文系数学
 - 難関大学受験 英語
 - 授業内容：国公立・早大・慶大・理科大受験に対応するハイレベル
- ⑱ 国語科：能・狂言、歌舞伎、文楽、雅楽鑑賞、
- ⑲ 社会科：隅田川周辺、江戸東京博物館見学、東京地方裁判所にて刑事裁判傍聴
- ⑳ 数学科：中学3年～高校1年 習熟度授業 2クラス2分割
- ㉑ 理 科：小石川植物園、葛西臨海水族園、上野動物園、鹿島技術研究所見学
- ㉒ 家庭科：テーブルマナー、食卓作法講習会、江戸東京たてもの園見学
- ㉓ 音楽科：合唱コンクール
- ㉔ 英語科：スピーチコンテスト
- ㉕ 進路ガイダンス・キャリアガイダンスの充実を図るプログラムの作成（教務と進路の提携）
- ㉖ 個人の学習到達目標を6年のスパンとする学力試験への変更

○ 対教員
講師による研修の定例化

○ 検討事項
海外語学研修の充実～姉妹校提携に向けて

3. 新規事業

★「面倒見の良い教育を通して、受験体制へシフトし結果として偏差値を上昇させる」というグランドデザインを具体化するための新規事業

○ 生活面

- ① 「生徒面談記録簿」を校務システムの中に取り入れ、全生徒の面談記録を残す。
- ② 生徒に対するコミュニケーションスキルトレーニングを体系化する
[ワークショップ内容]
- 中学1年生 テーマ：友達を増やそう
- ・友達づくりのはじめの一步 ～跡見学園に入学してよかったと思えるような楽しい時間を過ごす
 - ・力と知恵を合わせて ～協力の必要性・方法を知る。協力後の充実感を知る
- 中学2年生 テーマ：仲間のよさを見つけよう
- ・温かい心を届けよう①～相手の状況に応じた、気持ちのよい誘い方を知る。自分の気持ちを伝える返事の仕方を知る。
 - ・温かい心を届けよう②～ほめることで相手との関係がよくなることを知る。ほめるとき、状況にあったほめる言葉を知る。
- 中学3年生 テーマ：大人になる準備をしよう
- ・大人の世界へようこそ①～自分で問題解決することができるようにする
 - ・大人の世界へようこそ②～自分の進路は自分で選択できるようにする
- 学習面
- ① 高校2年生に難関大学受験クラスの設置
- 対 象 : 高校2年生で希望する生徒
- 日 時 : 1月以降 週1回 7時限目相当
- クラス : 難関大学受験 国語
難関大学受験 数学
難関大学受験 英語
- 授業内容 : 国公立・早大・慶大・上智大・理科大受験に対応し、ハイレベルの内容を含みながら、生徒の理解力を向上させる
- 費 用 : 教材費のみ徴収
- ② 高校カリキュラムの全面的見直し ～平成24年度より実施決定～
- 高校2年生
- ・私立文系コース
 - ・国公立文系コース
 - ・理系
- 高校3年生
- ・私立文系1コース
 - ・私立文系2コース
 - ・国公立文系コース
 - ・私立理系コース
 - ・国公立分理系コース
- 総合
- 「学校評価」制度を導入し、生徒・保護者・教員からの評価を踏まえ、チームマネジメントを強化する。評価を「見える」化、検証に「参加する」化、課題に「即取り組む」化を目指す。
- [プロセスと内容]
- ① 学校評価の中に、授業評価を位置づける。
- ・学校評価の取り組み状況の確認
 - ・授業評価の目的の確認
 - ・授業改善の体制の確認

- ② 授業評価のためのガイドライン分類項目の検討。
 - ・分類指標の設定
 - ・分類項目のバランス確定
 - ・調査対象と設問数の確定
- ③ 調査票質問項目の作成。
 - ・基本設問項目の作成
 - ・教科間の調整
 - ・専攻及び学年間の調整
- ④ 調査票質問項目のデータ設定。
 - ・調査票の原稿作成・印刷
 - ・調査票web入力の設定
- ⑤ データ入力法の確定。
 - ・生徒入力のための環境整備
 - ・入力代行処理
- ⑥ データをもとに話し合う。
 - ・授業ごとの分析
 - ・教科ごとの分析
 - ・自己評価データ検討会の実施
- ⑦ 改善点をまとめる。
 - ・ガイドラインの分類項目ごとに改善点の整理
 - ・PDCAシートの作成
 - ・学校評価活動との連動

4. 教員の教育力の向上をめざして

生徒の指導に当たる教員一人ひとりの能力を高め、教師集団としての教育力の向上を目指して次の目標掲げる。

- ① 教員の教科指導力の向上
- ② 教員のクラス経営、保護者との対応等マネジメント能力の向上
- ③ 教員の協働意識の向上

上記の目標達成のために次の事業を行う。

- ① 教員の教科指導能力の向上のために
 - ・教員の相互授業参観ならびに意見交換
 - ・研究授業による自己研鑽
 - ・校長・主事による授業参観
 - ・生徒による授業評価
- ② 教員のクラス経営、保護者との対応等のマネジメント能力向上のために
 - ・若手と経験豊富な教員との教育実践の交流・意見交換
 - ・中堅教員に対する実践力アップのための研修提供

例：授業学研究所主催 教員養成講座 [中級] 2時間×10コマ

第1回	生徒指導	2時間×2コマ
第2回	家庭学習管理	2時間×2コマ
第3回	保護者対応	2時間×2コマ
第4回	教育コーチング	2時間×2コマ
第5回	モチベーションアップ	2時間×2コマ

- ・若手教員に対する実践力アップのための研修提供
例：授業学研究所主催 教員養成講座 [初級] 3時間×4コマ
第1回 「学習する空間づくり」、行動力トレーニング
第2回 インタビュートレーニング、スピーチトレーニング
第3回 授業規律トレーニング①、単指示トレーニング
第4回 授業規律トレーニング②、修了検定

- ③ 教員の協働意識の向上のために
 - ・新入生出校日に合わせた新人教員への訓話
 - ・各校務主任による新人教員への研修
 - ・校長の新任教職員への個人面談、授業参観

5. 入試広報関係

平成23年度入試の反省と24年度に向けて

- ① 平成24年度帰国生入試に関する検討
- ② 平成24年度入試業務の更なる見直し
- ③ 卒業生を迎えてのシンポジウムの継続
11月頃 シンポジウム「マイ・ライフ」
山崎一穎校長・本校卒業生 李子記念講堂又はブロッサムホール

④ 学校説明会日程表

○ 外部主催

4月29日(金)	女子校アンサンブル	学習院女子大学
5月8日(日)	東京私立中学合同相談会	国際フォーラム
5月22日(日)	ベネッセ国際フォーラム合同相談会	国際フォーラム
6月4日(土)	私立中学校高等学校進学相談会	上野松坂屋
6月12日(日)	文京区私立中学高等学校連合進学説明会	文京シビックホール
7月10日(日)	ベネッセ進学フェア	東京ビッグサイト
7月29日(金)	帰国生のための学校説明会・相談会	青少年総合センター
8月20日(土)	東京私立学校展	東京国際フォーラム
8月21日(日)	東京私立学校展	東京国際フォーラム
9月4日(日)	TOMAS受験相談会	新宿NSビル
10月16日(日)	池袋進学相談会	池袋サンシャイン

○ 本校主催

5月12日(月)	塾の先生対象	10:30~12:20
5月14日(土)	保護者対象	10:30~12:20
6月18日(土)	小学生対象 クラブ発表会	14:00~
7月2日(土)	保護者対象	10:30~12:20
9月9日(金)	保護者対象	18:00~
9月17日(土)	保護者対象 (文化祭)	9:00~16:00
9月18日(日)	保護者対象 (文化祭)	9:00~16:00
10月17日(月)	塾の先生対象	10:30~12:20
11月5日(土)	保護者対象	10:30~12:20
11月19日(土)	小学生対象 体験授業	14:00~
12月3日(土)	保護者対象	10:30~12:20

○ 本校における各塾主催

・市進	5月16日(月)		10:30~12:20
・SAPIX	5月19日(木)		10:30~12:20
・栄光ゼミナール	6月23日(木)		10:30~12:20
・TOMAS	6月27日(月)		10:30~12:20
・四谷大塚	10月16日(日)含	模擬試験	8:30~11:30
	11月13日(日)含	模擬試験	8:30~11:30
	12月11日(日)含	模擬試験	8:30~11:30

Ⅲ. 平成23年度事業計画の事業費及び実施予定

【施設環境の整備】

新座キャンパス

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
大学	仮設校舎の設置	4,720	年間リース料	
	体育館ガス暖房（ペーパライザー）更新工事	1,838	8月	
	車両更新（作業用軽トラック）	795	4月	
	門衛所受付庇設置工事	2,000	6月	
	食堂棟屋上防水工事	18,585	8月	
	食堂棟空調設備更新工事	13,650	8月	
	防犯システム構築（機械警備）	14,527	4月	

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
中高	仮設体育倉庫リース料	187	リース料	
	体育倉庫設置	8,400	8月	体育倉庫常設
	階段落下防止ネット補修工事	1,000	8月	
	校舎内塗装工事（1階～6階廊下壁・天井）	12,285	8月	
	AED設置（2台）	700	4月	
	大アリーナ天井改修工事	22,370	7月	
	大アリーナ天井照明器具交換工事	12,600	7月	
	李子記念講堂調光設備改修工事	18,270	8月	
	李子記念講堂舞台機構設備改修工事	15,700	8月	
	熱源（冷温水発生機）更新工事	160,000	9月～1月	3基
	防災監視盤更新工事	9,300	8月	
	建物外壁劣化診断	1,790	12月	

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
法人	正門廻り改修工事	39,000	4月	
	建物外壁劣化診断	1,040	12月	

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
北軽井沢 研修所	給湯配管更新工事	3,400	7月	第2期

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
学生寮	AED設置（1台）	340	4月	

【情報環境の整備】

新座キャンパス

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
大学	2号館AV機器更新（2教室）	4,120	8月	
	2号館PC設置（2式）	560	8月	
	上記ネットワーク・電源工事	1,000	8月	
	ネットワークシステム更新	147,431	8月	
	証明書自動発行機更新	15,698	9月	
	一般教室貸出用ノートPC更新	5,040	4月	24台
	大学院生貸与用ノートPC更新	1,397	4月	7台
	心理教育相談所PC更新	644	4月	PC; 2台 ノートPC; 1台 PR; 1台
	心理教育相談所SPSSライセンス更新	333	4月	3点
	教材作成ラボ什器・機器更新	9,969	8月	

文京キャンパス

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
大学	一般教室貸出用ノートPC更新	1,050	4月	5台
	マネジメント研究科研究室PC更新	303	4月	PC; 1台 PR; 1台 SC; 1台

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
中高	ネットワークシステム更新	14,919	8月	

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
法人	ネットワークシステム更新	12,348	8月	
	グループウェアの導入	3,008	12月	
	学術情報ネットワーク〔SINET 4〕への移行	5,722	8月	

【広報活動】

(単位：千円)

機 関	事 業 項 目	事業費	実施時期	備 考
法人	ブロッサム発行・郵送	17,440	7月、1月	
	WEB環境の整備 (校友メールマガジン配信、ウェルカムナビ等)	3,507	通年	
	イメージ広告等			
	①駅ポスター・雑誌等へのイメージ広告	13,959	随時	東横浜谷駅Big10など
	②中高受験雑誌、父親層向け経済誌等への広告	1,270	随時	ダイヤモンドなど
	③グッズ制作(手提袋、あぶらとりがみ、文房具など)	7,749	4～5月	オープンキャンパスにて配付
	中高等学校案内DVD制作など	5,000	4～5月	
	教育シンポジウムの実施(中高)	2,000	10～11月	
大学	高校教員対象進学説明会	900	6月	
	新聞入試連合広告(朝日新聞)、雑誌広告、電車内広告等	10,944	随時	
	大学院募集広告	916	随時	
	就職関係雑誌広告	1,470	随時	
	就職懇談会	1,200	11月	
大学・中高	検定料コンビニ振込	945	9～3月	
中高	雑誌等広告	2,289	随時	
	DM	500	12月	
	塾対象進学説明会	1,321	随時	

Ⅳ. 平成23年度跡見学園収支予算について

1. 平成23年度収支予算書

(1) 資金収支予算書

平成23年4月1日から

平成24年3月31日まで

収入の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金収入	5,612,633,000	5,551,233,000	61,400,000
授業料収入	4,011,613,000	3,966,367,000	45,246,000
入学金収入	501,285,000	497,505,000	3,780,000
実験実習料収入	24,787,000	25,579,000	△ 792,000
施設設備資金収入	1,005,756,000	993,394,000	12,362,000
冷暖房費収入	69,192,000	68,388,000	804,000
手数料収入	116,330,000	101,010,000	15,320,000
入学検定料収入	109,400,000	94,700,000	14,700,000
証明手数料収入	2,230,000	1,910,000	320,000
大学入試センター試験実施手数料収入	4,700,000	4,400,000	300,000
寄付金収入	169,350,000	167,331,000	2,019,000
特別寄付金収入	54,844,000	54,844,000	0
一般寄付金収入	114,506,000	112,487,000	2,019,000
補助金収入	773,766,000	802,035,000	△ 28,269,000
国庫補助金収入	320,000,000	344,714,000	△ 24,714,000
地方公共団体補助金収入	445,345,000	452,190,000	△ 6,845,000
都私学財団補助金収入	8,421,000	5,131,000	3,290,000
資産運用収入	55,000,000	55,000,000	0
受取利息・配当金収入	55,000,000	55,000,000	0
事業収入	134,976,000	138,459,000	△ 3,483,000
補助活動収入	134,786,000	138,098,000	△ 3,312,000
受託事業収入	190,000	361,000	△ 171,000
雑収入	176,870,000	92,380,000	84,490,000
東京都私学財団交付金収入	33,823,000	3,000,000	30,823,000
私立大学退職金財団交付金収入	138,617,000	83,542,000	55,075,000
その他の雑収入	4,430,000	5,838,000	△ 1,408,000
前受金収入	1,392,909,000	1,408,298,000	△ 15,389,000
授業料前受金収入	568,372,000	571,711,000	△ 3,339,000
入学金前受金収入	508,735,000	511,485,000	△ 2,750,000
実験実習料前受金収入	7,344,000	7,344,000	0

施設設備資金前受金収入	288,060,000	289,510,000	△ 1,450,000
冷暖房費前受金収入	13,188,000	13,248,000	△ 60,000
補助活動前受金収入	7,210,000	15,000,000	△ 7,790,000
その他の収入	200,640,000	257,478,000	△ 56,838,000
退職給与引当特定資産からの繰入収入	0	103,201,000	△ 103,201,000
前期末未収入金収入	200,000,000	154,277,000	45,723,000
貸付金回収収入	640,000	0	640,000
資金収入調整勘定	△ 1,639,845,000	△ 1,584,324,000	△ 55,521,000
期末未収入金	△ 231,547,000	△ 200,000,000	△ 31,547,000
前期末前受金	△ 1,408,298,000	△ 1,384,324,000	△ 23,974,000
前年度繰越支払資金	7,613,475,000	7,807,060,000	△ 193,585,000
収入の部合計	14,606,104,000	14,795,960,000	△ 189,856,000

支出の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費支出	3,718,875,000	3,582,953,000	135,922,000
教員人件費支出	2,333,167,000	2,338,778,000	△ 5,611,000
職員人件費支出	1,101,369,000	1,093,271,000	8,098,000
役員報酬支出	48,968,000	47,703,000	1,265,000
退職金支出	235,371,000	103,201,000	132,170,000
教育研究経費支出	1,294,823,000	1,276,770,000	18,053,000
準備品費支出	752,000	539,000	213,000
消耗品費支出	97,770,000	98,397,000	△ 627,000
光熱水費支出	135,200,000	132,112,000	3,088,000
通信運搬費支出	26,488,000	26,730,000	△ 242,000
福利費支出	26,043,000	24,963,000	1,080,000
出版物費支出	50,233,000	49,321,000	912,000
印刷製本費支出	54,673,000	53,164,000	1,509,000
旅費交通費支出	38,488,000	36,834,000	1,654,000
奨学費支出	55,754,000	55,754,000	0
修繕費支出	58,813,000	48,247,000	10,566,000
保険料支出	3,670,000	4,283,000	△ 613,000
賃借料支出	112,720,000	140,347,000	△ 27,627,000
諸会費支出	9,342,000	9,160,000	182,000
学生・生徒会補助金支出	3,848,000	3,848,000	0
広告費支出	5,922,000	5,926,000	△ 4,000
会議費支出	290,000	305,000	△ 15,000
食事費支出	9,228,000	9,015,000	213,000
支払手数料支出	6,503,000	6,387,000	116,000
教育実習謝礼支出	950,000	685,000	265,000

渉外費支出	3,985,000	2,835,000	1,150,000
業務委託費支出	593,824,000	567,584,000	26,240,000
雑費支出	327,000	334,000	△ 7,000
管理経費支出	760,271,000	809,331,000	△ 49,060,000
準備品費支出	0	6,965,000	△ 6,965,000
消耗品費支出	26,276,000	36,000,000	△ 9,724,000
光熱水費支出	21,410,000	21,170,000	240,000
通信運搬費支出	12,045,000	12,931,000	△ 886,000
福利費支出	9,650,000	9,511,000	139,000
出版物費支出	1,939,000	1,935,000	4,000
印刷製本費支出	20,612,000	27,186,000	△ 6,574,000
旅費交通費支出	15,534,000	19,954,000	△ 4,420,000
修繕費支出	14,782,000	31,583,000	△ 16,801,000
保険料支出	1,509,000	1,075,000	434,000
賃借料支出	106,588,000	119,383,000	△ 12,795,000
公租公課支出	3,388,000	3,338,000	50,000
諸会費支出	8,184,000	8,700,000	△ 516,000
広告費支出	133,211,000	147,229,000	△ 14,018,000
会議費支出	1,968,000	1,902,000	66,000
食事費支出	4,410,000	4,420,000	△ 10,000
支払手数料支出	14,666,000	9,953,000	4,713,000
渉外費支出	8,597,000	6,930,000	1,667,000
業務委託費支出	355,339,000	338,993,000	16,346,000
雑費支出	163,000	173,000	△ 10,000
施設関係支出	318,270,000	221,326,000	96,944,000
建物支出	279,270,000	209,080,000	70,190,000
構築物支出	39,000,000	12,246,000	26,754,000
設備関係支出	256,586,000	448,607,000	△ 192,021,000
教育研究用機器備品支出	213,680,000	392,630,000	△ 178,950,000
その他の機器備品支出	12,833,000	21,643,000	△ 8,810,000
図書支出	29,278,000	34,334,000	△ 5,056,000
車両支出	795,000	0	795,000
資産運用支出	700,000,000	800,000,000	△ 100,000,000
建物償却引当特定資産への繰入支出	500,000,000	600,000,000	△ 100,000,000
法人維持特定資産への繰入支出	200,000,000	200,000,000	0
その他の支出	91,000,000	106,653,000	△ 15,653,000
前払金支払支出	21,000,000	22,000,000	△ 1,000,000
前期末未払金支出	70,000,000	84,653,000	△ 14,653,000
[予備費]	50,000,000	50,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 106,000,000	△ 113,155,000	7,155,000
期末未払金	△ 84,000,000	△ 70,000,000	△ 14,000,000

前期末前払金	△ 22,000,000	△ 43,155,000	21,155,000
次年度繰越支払資金	7,522,279,000	7,613,475,000	△ 91,196,000
支出の部合計	14,606,104,000	14,795,960,000	△ 189,856,000

(2) 消費収支予算書

平成23年 4月 1日から
平成24年 3月31日まで

消費収入の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	5,612,633,000	5,551,233,000	61,400,000
授業料	4,011,613,000	3,966,367,000	45,246,000
入学金	501,285,000	497,505,000	3,780,000
実験実習料	24,787,000	25,579,000	△ 792,000
施設設備資金	1,005,756,000	993,394,000	12,362,000
冷暖房費	69,192,000	68,388,000	804,000
手数料	116,330,000	101,010,000	15,320,000
入学検定料	109,400,000	94,700,000	14,700,000
証明手数料	2,230,000	1,910,000	320,000
大学入試センター試験実施手数料	4,700,000	4,400,000	300,000
寄付金	169,350,000	167,331,000	2,019,000
特別寄付金	54,844,000	54,844,000	0
一般寄付金	114,506,000	112,487,000	2,019,000
補助金	773,766,000	802,035,000	△ 28,269,000
国庫補助金	320,000,000	344,714,000	△ 24,714,000
地方公共団体補助金	445,345,000	452,190,000	△ 6,845,000
都私学財団補助金	8,421,000	5,131,000	3,290,000
資産運用収入	55,000,000	55,000,000	0
受取利息・配当金	55,000,000	55,000,000	0
事業収入	134,976,000	138,459,000	△ 3,483,000
補助活動収入	134,786,000	138,098,000	△ 3,312,000
受託事業収入	190,000	361,000	△ 171,000
雑収入	143,047,000	89,380,000	53,667,000
私立大学退職金財団交付金	138,617,000	83,542,000	55,075,000
その他の雑収入	4,430,000	5,838,000	△ 1,408,000
帰属収入合計	7,005,102,000	6,904,448,000	100,654,000
基本金組入額合計	△ 538,856,000	△ 554,829,000	15,973,000
消費収入の部合計	6,466,246,000	6,349,619,000	116,627,000

消費支出の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人件費	3,633,504,000	3,629,752,000	3,752,000
教員人件費	2,333,167,000	2,338,778,000	△ 5,611,000
職員人件費	1,101,369,000	1,093,271,000	8,098,000
役員報酬	48,968,000	47,703,000	1,265,000
退職給与引当金繰入額	150,000,000	150,000,000	0
教育研究経費	1,971,561,000	2,051,092,000	△ 79,531,000
準備品費	752,000	539,000	213,000
消耗品費	97,770,000	98,397,000	△ 627,000
光熱水費	135,200,000	132,112,000	3,088,000
通信運搬費	26,488,000	26,730,000	△ 242,000
福利費	26,043,000	24,963,000	1,080,000
出版物費	50,233,000	49,321,000	912,000
印刷製本費	54,673,000	53,164,000	1,509,000
旅費交通費	38,488,000	36,834,000	1,654,000
奨学費	55,754,000	55,754,000	0
修繕費	58,813,000	48,247,000	10,566,000
保険料	3,670,000	4,283,000	△ 613,000
賃借料	112,720,000	140,347,000	△ 27,627,000
諸会費	9,342,000	9,160,000	182,000
学生生徒会補助金	3,848,000	3,848,000	0
広告費	5,922,000	5,926,000	△ 4,000
会議費	290,000	305,000	△ 15,000
食事費	9,228,000	9,015,000	213,000
支払手数料	6,503,000	6,387,000	116,000
教育実習謝礼	950,000	685,000	265,000
渉外費	3,985,000	2,835,000	1,150,000
業務委託費	593,824,000	567,584,000	26,240,000
雑費	327,000	334,000	△ 7,000
減価償却額	676,738,000	774,322,000	△ 97,584,000
管理経費	814,688,000	870,361,000	△ 55,673,000
準備品費	0	6,965,000	△ 6,965,000
消耗品費	26,276,000	36,000,000	△ 9,724,000
光熱水費	21,410,000	21,170,000	240,000
通信運搬費	12,045,000	12,931,000	△ 886,000
福利費	9,650,000	9,511,000	139,000
出版物費	1,939,000	1,935,000	4,000
印刷製本費	20,612,000	27,186,000	△ 6,574,000
旅費交通費	15,534,000	19,954,000	△ 4,420,000
修繕費	14,782,000	31,583,000	△ 16,801,000

保険料	1,509,000	1,075,000	434,000
賃借料	106,588,000	119,383,000	△ 12,795,000
公租公課	3,388,000	3,338,000	50,000
諸会費	8,184,000	8,700,000	△ 516,000
広告費	133,211,000	147,229,000	△ 14,018,000
会議費	1,968,000	1,902,000	66,000
食事費	4,410,000	4,420,000	△ 10,000
支払手数料	14,666,000	9,953,000	4,713,000
渉外費	8,597,000	6,930,000	1,667,000
業務委託費	355,339,000	338,993,000	16,346,000
雑費	163,000	173,000	△ 10,000
減価償却額	54,417,000	61,030,000	△ 6,613,000
資産処分差額	2,280,000	7,362,000	△ 5,082,000
建物処分差額	0	5,232,000	△ 5,232,000
教育研究用機器備品処分差額	1,200,000	900,000	300,000
その他の機器備品処分差額	80,000	230,000	△ 150,000
図書処分差額	1,000,000	1,000,000	0
[予備費]	50,000,000	50,000,000	0
消費支出の部合計	6,472,033,000	6,608,567,000	△ 136,534,000
当年度消費支出超過額	5,787,000	258,948,000	△ 253,161,000
前年度繰越消費支出超過額	4,071,738,000	3,812,790,000	258,948,000
翌年度繰越消費支出超過額	4,077,525,000	4,071,738,000	5,787,000

平成23年度 収益事業予算書

平成23年 4月1日から

平成24年 3月31日まで

学校法人跡見学園 収益事業部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
経常収入			
商品売上利益	6,300,000	6,300,000	0
書籍売上利益	5,000,000	5,000,000	0
生保取扱手数料	150,000	150,000	0
損保取扱手数料	800,000	800,000	0
駐車場賃貸料収入	18,924,000	15,960,000	2,964,000
不動産賃貸料収入	3,220,000	3,220,000	0
雑収入	1,400,000	1,400,000	0
経常収入計	35,794,000	32,830,000	2,964,000

販売費及び一般管理費			
人件費	16,500,000	28,150,000	△ 11,650,000
委託管理費	946,000	798,000	148,000
減価償却費	0	90,000	△ 90,000
諸税公課	5,700,000	5,500,000	200,000
諸経費	3,000,000	3,000,000	0
販売費及び一般管理費計	26,146,000	37,538,000	△ 11,392,000
営業利益	9,648,000	△ 4,708,000	14,356,000
当期純利益	9,648,000	△ 4,708,000	14,356,000

可 決 承 認 日

◎平成23年度跡見学園事業計画及び収入支出予算

平成23年 3月22日 第307回 評議員会
第353回 理 事 会

◎平成22年度跡見学園事業実績の報告及び収支決算報告

平成23年 5月24日 第354回 理 事 会
第308回 評議員会

跡見学園法人事務局 総務部庶務課



跡見学園報 第52号 別冊

発行日 平成23年 7 月19日

編集 跡見学園法人事務局

発行 学校法人跡見学園

〒112-8629

東京都文京区大塚一丁目 5 番 9 号

電話 03-3941-8161

F A X 03-3941-8162

U R L : <http://www.atomi.ac.jp/>